

Translation of the abstract of Japanese Utility Model  
Registration Publication No. 3,018,299

(54) [Title of the Device] One-touch Money Transfer System for  
Banks

(57) [Abstract]

[Purpose] The purpose of the device is to provide a money transfer system whereby an individual customer, by one-touch operation on an Automated Teller's Machine (ATM), can complete money transfer, whose payment detail report is to be used in the clearing process for the recipient.

[Configuration] The system comprises a host computer 1 and an ATM2. The host computer 1 registers individual customer data (individual customer code, etc.) and recipient data 4 (client company name, recipient account number, etc.) which are supplied to the bank from client companies thereof. The ATM2 is provided with the feature of displaying a list of the recipient data 4 of an individual customer, which is registered in the host computer 1, on the monitor where a recipient can be selected by one-touch operation. A payment detail report of the transfer transaction completed by the above operation of the ATM2 is added with the individual customer code and sent to the client company for the clearing process.

[Advantageous Results] The advantageous results include increased use of ATMs, concentration of money for corporate transactions, and prompt execution of the payment clearing process using individual customer codes by client companies.

(10) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3018299号

(45) 発行日 平成7年(1995)11月14日

(20) 登録日 平成7年(1995)9月6日

(51) Int. Cl.<sup>4</sup>

G 0 7 D 9/00

G 0 6 F 19/00

登録記号

4 3 6 B

庁内登録番号

P I

技術表示箇所

G 0 6 P 15/ 30

3 6 0

特許書の請求 未請求 請求項の数 1 P D (全 9 P D)

(21) 出願番号

実願平7-5857

(22) 出願日

平成7年(1995)5月18日

(73) 実用新案報告 昭2039649

株式会社住友銀行

大阪府大阪市中央区北浜4丁目6番5号

(72) 発明者 伊藤 建彦

東京都千代田区丸の内一丁目3番2号 株

式会社住友銀行内

(74) 代理人 弁理士 山名 正彦

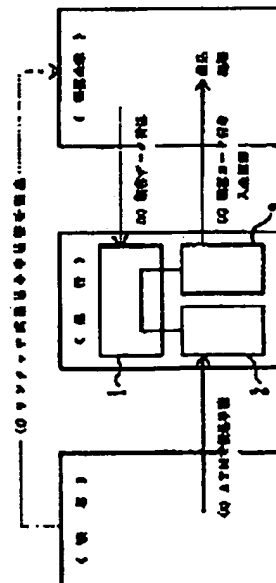
(54) 【発明の名称】 銀行のワンタッチ式振込みシステム

(57) 【要約】

【目的】 顧客はATMのワンタッチ操作で振込みを完了でき、その入金明細は振込み先の消込み処理に供される振込みシステムを提供する。

【構成】 提携企業から銀行に持ち込まれた顧客コードを含む顧客データと提携企業名や振込み口座番号等の振込み先データ4を登録したホストコンピュータ1と、前記ホストコンピュータ1に登録された顧客別の振込み先データ4を画面中に一覧表示させ、ワンタッチで振込み先を選択可能な機能を付加したATM2とから成り、前記ATM2の操作により完了された振込み手続に係る入金明細は、顧客コードが付されたデータとして提携企業へ送り、消込み処理に供する。

【効果】 ATMの利用度増大、企業取引における資金の振込が図られ、企業にとっては顧客コードを利用して迅速に入金の消込み処理を行える。



(2)

実登3018299

1

2

## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 提携企業から銀行に持ち込まれた顧客コードを含む顧客データと提携企業名や振込み口座番号等の振込み先データが登録されたホストコンピュータと、前記ホストコンピュータに登録された顧客別の振込み先データを画面中に一覧表示させ、ワンタッチで振込み先を選択可能な候補が付加されたオートメイトドテラズマシンとから成り、前記オートメイトドテラズマシンの操作により完了された振込み手続に係る入金明細は、顧客コードが付されたデータとして提携企業へ送られ消込み処理に供せしめる構成とされていることを特徴とする、銀行のワンタッチ式振込みシステム。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】 本発案の振込みシステムを示した図略図である。

【図2】 振込みを実行するATMの初期画面の説明図である。

\* 【図3】 振込み種類のメニュー画面の説明図である。

【図4】 カードの挿入を促す画面の説明図である。

【図5】 通帳の挿入又は暗証番号の入力を促す画面の説明図である。

【図6】 振込み金額の入力を促す画面の説明図である。

【図7】 振込み先の選択を促す画面の説明図である。

【図8】 振込み内容の最終確認を促す画面の説明図である。

【図9】 振込みの執行を問う画面の説明図である。

【図10】 カードの受領を促す画面の説明図である。

【図11】 利用枠の受領を促す画面の説明図である。

## 【符号の説明】

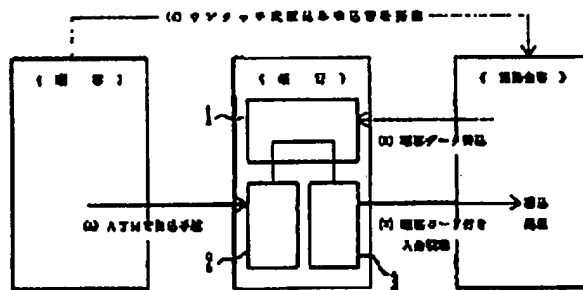
1 ホストコンピュータ

2 オートメイトドテラズマシン（ATM）

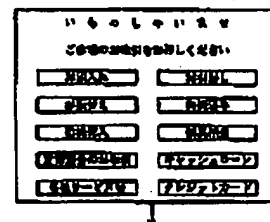
3 EBシステム

4 振込み先データ

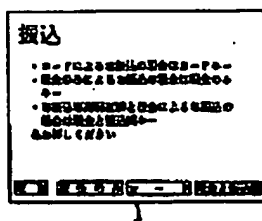
【図1】



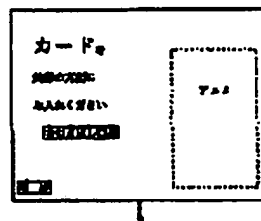
【図2】



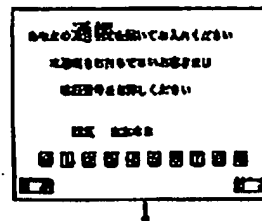
【図3】



【図4】



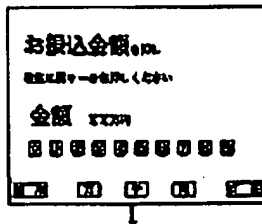
【図5】



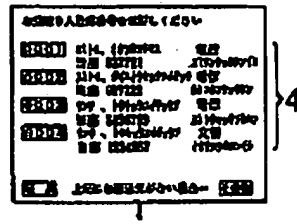
(9)

實登3018299

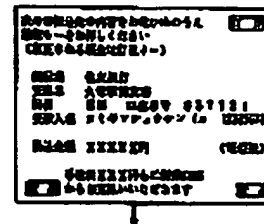
【圖8】



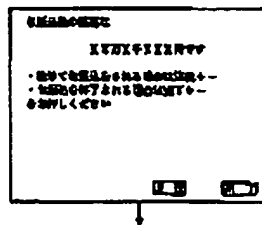
【圖 7】



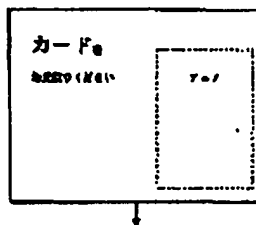
【圖8】



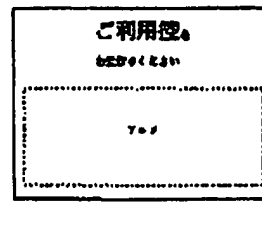
【圖9】



【圖 10】



【 1 1 】



(4)

実登3018299

## 【考案の詳細な説明】

## 【0001】

## 【産業上の利用分野】

この考案は、オートメテッドテラーズマシン（以下、単にATMという。）を利用して、株式取引の代金や通信販売による商品購入代金、あるいは旅行代理店に申し込んだ旅券費用や各種講座・イベントの申込み金、更には学費などの振込み手続を、銀行の顧客がATMの画面上でワンタッチで実行できると共に、その入金明細は、証券会社や通信販売会社、代理店等の振込み先（以下、提携企業という。）の消込み処理に供される振込みシステムに関する。

## 【0002】

## 【従来の技術】

従来、ATMによる振込み手段としては、①現金のみで振込む場合と、②キャッシュカードを利用して振込む場合と、③前記の①、②により振込む際に振込み帳や振込みカードを併用する場合の3通りに大別される。

①の現金のみの振込みは、ATMのメニュー画面（図2参照）で振込みサービスを選択した後、振込み金額を入力し（図6参照）、つづいて一連の振込み先を特定する操作を行う（図示は省略）。その手順は、まず、振込み先の金融機関を一覧表から選択し、振込み支店を指定し、次に、電信か文書扱いかを指定し、普通預金か当座か又は振替えかの科目を指定し、口座番号を入力し、振込み先の氏名を片仮名で1文字ずつ入力して振込み先を特定する。更につづいて、振込み人である顧客本人を特定するために、振込み人の氏名と連絡先の電話番号を入力して振込む。

## 【0003】

②のキャッシュカード利用型では、現金を用いずに自分の預金口座からの引落しによって振込みを行う。この場合は、図3の画面で「カード」を選択し、つづく図4の画面に従いキャッシュカードをATMに挿入する。次に、図5の画面表示となったところで、預金通帳をATMに挿入する。通帳を持参しない場合は、暗証番号を入力する。そこではじめて図6の振込み金額の指定画面となる。以下、前記①と同様の振込み先を特定する一連の操作をして振込み手続を行う。但し

(5)

実登3018299

、振込み人はキャッシュカードによって確認されるので、画面上での振込み人の特定作業は不要である。

#### 【0004】

㊦の振込み帳又は振込みカードの併用型では、振込み帳や振込みカードに、振込み先と振込み人のデータが既に登録されているので、現金又はキャッシュカードで振込みを行う際に、顧客は振込み先と振込み人の特定作業が不要となる。

ところで、上記の如くしてATMにより提携企業への振込み手続が完了した後、提携企業側では、振込み（入金）の確認作業として、所謂、消込み処理を行う。その消込み処理は、「誰から振込みがあったか」という振込み人の特定が中心であり、従来は、銀行の振込みデータに基づいて、振込み人の氏名を注視しながら確認して消込み処理を行っている。

#### 【0005】

##### 【本考案が解決しようとする課題】

顧客が提携企業へ代金を振込む手段として前記㊦、㊧の場合は、振込みの都度、振込み先（提携企業）及び振込み人（顧客）を特定する作業をATMの画面上でいちいち操作しなければならず、大変面倒で煩わしい。その点、㊨の振込み帳等の併用型では、振込み先及び振込み人を特定する手間が省けて便利である。しかし、この㊨の場合、振込み人は、併用される振込み帳又は振込みカードを管理、持参する面倒さがある。振込み帳等を紛失したり、持参しなかった場合は併用型としてのメリットを生かせないのである。銀行としても振込み帳や振込みカードの発行に伴う費用、事務処理負担増といった問題がある。さらに、振込みカードの場合、カード1枚につき、振込み先は1社又はせいぜい2社までしか登録できないので、振込み先の数が増えれば、その分振込みカードの枚数は増え、振込み人や銀行の負担は増える一方である。

#### 【0006】

また、上記㊦、㊧、㊨のいずれの手段においても、振込みデータは、あくまで振込み人の氏名、それもカタカナで表示された氏名しか表れてこないもので、そのカタカナ表示の氏名で追っていく消込み処理は大変厄介である。提携企業としては、代金の回収事務の大幅な合理化を図って迅速に処理したいが、現在のところ

(6)

実登3018298

、そのようなニーズに応える優れた手段は見当たらない。

【0007】

したがって、本考案の目的は、顧客がATMを利用して行う振込み手続は簡単に確実に、ATMの利用度増加を図れると共に、提携企業の消込み処理をも簡単に行えて代金等の回収事務処理の大幅な合理化が図られる、銀行のワンタッチ式振込みシステムを提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】

上記従来技術の課題を解決するための手段として、請求項1の考案に係る銀行のワンタッチ式振込みシステムは、

提携企業から銀行に持ち込まれた顧客コードを含む顧客データと提携企業名や振込み口座番号等の振込み先データ4を登録したホストコンピュータ1と、前記ホストコンピュータ1に登録された顧客別の振込み先データ4を画面中に一覧表示させ、ワンタッチで振込み先を選択可能な機能を付加したATM2とから成り、前記ATM2の操作により完了された振込み手続に係る入金明細は、顧客コードが付されたデータとして提携企業へ送り、消込み処理に供する構成としたことを特徴とする。

【0009】

【作用】

顧客コードを含む顧客データと提携企業等の振込み先データ4は銀行のホストコンピュータ1に予め登録され、ATM2の振込みサービスの画面中には前記顧客に関する振込み先データ4が選択可能に一覧表示されるので(図7)、振込み先の特定はATM2に表示される前記振込み先一覧からワンタッチで選択することにより簡単に行え、顧客は迅速に振込み手続を終えることができる。

【0010】

振込み手続が完了すると、前記振込み手続に係る入金明細は、提携企業側で定めた算用数字等から成る判別し易い顧客コードが付されたデータとして提携企業へ送られるので(図1)、提携企業は当該顧客コードをチェックして入金消込み処理を迅速に確実に行うことができる。

(7)

実登3018299

【0011】

【実施例】

以下に、図示した本考案の実施例を説明する。

図1は、ワンタッチ式振込みシステムの模式図であり、顧客は銀行のATM2を操作して提携企業（振込み先）へ振込み手続をし、提携企業は、コンピュータで情報を受取り可能なEISシステム（エレクトロニックバンキングシステムの略称）3を利用して銀行のホストコンピュータ1から前記顧客の振込み状況を顧客コード付きの入金明細により確認（消込み）処理できることを示している。その前提として、ホストコンピュータ1には、顧客コードの索引ファイルが設けられ、提携企業から銀行に持ち込まれたデータに基づく顧客の預金口座番号（他行の顧客の場合は、電話番号と、顧客が任意で指定する3～4桁の番号であるメモリー番号）が検索対象項目とされている。また、提携企業側で定めた10桁前後の算用数字や英文字等から成る顧客コードと、振込み先の提携企業名や振込み銀行名、その支店名、口座の種類、口座番号、さらに電振、文書扱いの別などの振込み先のデータ4が予め登録されている（図7参照）。当該振込み先データ4は、顧客1人につき、振込み先10件程度である。よって、顧客の預金口座番号（又は電話番号とメモリー番号等）に基づいて顧客別の振込み先データ4がホストコンピュータ1から呼び出し可能状態となっている。一方、ATM2には、前記ホストコンピュータ1に登録された顧客別の振込み先データ4を画面中に一覧表示させ、ワンタッチで振込み先を選定できる機能が付加されている。

【0012】

したがって、銀行の顧客は、爾後の提携企業への振込みは当該ワンタッチ式振込みにより行う旨、提携企業との間で予め契約を交わし、その申込書を提携企業へ提出する（図中、符号（イ）参照）。提携企業は、前記ワンタッチ式振込み申込書を受け取り次第、前記顧客のデータをマグネットテープやフロッピーディスクに記録し、郵送などにより銀行へ持ち込む（図中、符号（ロ）参照）。この顧客データが銀行へ持ち込まれた段階で、銀行は当該データを上記のようにホストコンピュータ1へ登録する。

【0013】

(8)

実登3018299

図2～図11は、顧客（振込み人）がATM2を利用してキャッシュカードを使って振込む場合の振込み手続（図1中、符号（イ）参照）の手順をATM2の画面表示で示している。

まず、顧客は、図2に示したATM2の初期画面に表示されたメニューから「お振込み」を選択する。すると、振込み方法を示す図3の画面に移り、同画面上で「カード」を選択し、次画面の図4の画面表示に従ってキャッシュカードをATM2に挿入する。預金通帳を持参している場合は、図5に示した次画面で預金通帳をATM2に挿入し、図示を省略した次画面で暗証番号を挿入する。預金通帳を持参していない場合は、図5の画面で暗証番号を入力する。なお、他行の顧客の場合は、当該他行のキャッシュカードをATM2に挿入した後、電話番号とメモリー番号を図示を省略した画面に入力するか、電話番号とメモリー番号が予め登録されている振込み帳をATM2に挿入する。

【0014】

次に、図6の振込み金額の指定画面に移り、同画面で振込み金額を入力し終わると、ATM2はホストコンピュータ1内の当該顧客に係る振込み先データ4を検索し始める。検索された振込み先データ4は、図7に示したように画面中に一覧表示され、この一覧表から希望する振込み先に係る受取り人登録番号、例えば「0001」を選択する。この画面に振込み先がない場合は、「その他」を選択することにより図示を省略した他の振込み先データ4が一覧表示され、やはり、受取り人登録番号を選択することにより振込み先をワンタッチで指定できる。

【0015】

かくして、振込み先の特定は終了する。もちろん、振込み人（顧客）本人の入力は不要である。後は、図8の画面で振込み先の最終確認をし、図9の画面で振込み後の残高を表示すると共に他社への振込みの有無を促すのにしたが、い、「連続」か「完了」を選択する。「連続」の場合、図6の画面に戻り、「完了」の場合、キャッシュカードは図10の画面で返還され、最後に図11の画面で利用控を受領して振込み手続が完了する。

【0016】

前記のようにして振込み手続が完了すると、当該振込みに係る入金明細を提携

(9)

実登3018299

企業の消込み処理の利用に供するべく、ホストコンピュータ1は、顧客コード索引ファイルを活用してデータの読み替えを自動的に行う。すなわち、例えば、振込み先が「スミギンショウケン（カ）で顧客コードが「123456789」、振込み人が「ヤマダタロウ」の場合、振込み手続の完了時点で、顧客コード付きの「スミギンショウケン（カ 123456789）」となっているデータ（図8参照）は、冒頭に顧客コードを表示し、つづいて振込み人名を記した「123456789 ヤマダタロウ」というデータ表示に変換される。

【0017】

したがって、提携企業は、例えば図1に示したEBシステム3を利用して銀行のホストコンピュータ1にアクセスし、又は銀行からの郵送などによって、前記顧客コード付きの入金明細を入手し（図1中の符号(二)参照）、前記顧客コードに基づいて消込み処理を迅速に行うことができる。

【0018】

【本考案の効果】

本考案に係る銀行のワンタッチ式振込みシステムによれば、銀行のATMさえあれば利用可能であり、顧客はこのATMを操作して至極簡単に振込むことができる。また、振込み手数料は窓口扱いより安いから、ATMの利用度増大に寄与する。ATMの利用度増大は、銀行にとって為替手数料の増大、企業取引における資金の集中化を促進し、窓口事務など事務処理の軽減化に貢献すると共に、顧客データの登録コストも安いので経費の節減にも寄与する。提携企業にとっては、顧客からの入金の消込み処理の迅速化が図れることにより、代金等の回収事務処理の大幅な合理化が達成される。また、3連式振込み用紙を顧客に交付している場合は、振込み用紙を作成する負担がなくなり、手数料を受取人負担としている場合は、その負担軽減に役立つ。